

春秋

2015.3.13

渋谷駅で10年間、飼い主の帰りを待ち続けた秋田犬ハチの新しい銅像ができた。今月8日はハチが死んで80年に当たり、飼い

主の教授ゆかりの東大農学部に設置された。渋谷のハチ公像は独り寂しそうだが、新しい像はハチが大好きな教授に飛びつく場面だ。人と犬の絆の強さが伝わる▼そんな折、作家のヒロコ・ムトーさんから新著「天使になったシユクちゃん」(文芸春秋)が届いた。副題は「世界一愛された犬の七年半」▼その子犬はペットショップで一匹だけ売れ残っていた。血統書付きのキャバリア犬だが、心臓に病気があった。そのままなら、名前もないまま消えてしまう命だったかもしれない▼ビーグル犬を探して店を訪れたミナコさんと目が合った。ミナコさんは、子犬が長く生きられないこと、治療費がたくさんかかることを知りながら子犬のお母さんになった。「1回限りの命だもん。思い切り甘えさせてあげる」▼子犬は「シユクル(フランス語で砂糖)」と名付けられ、家族にかわいがられた。やがて死期が近づいたシユクちゃんに家族は大切な仕事を依頼する。短かったけれど愛情にあふれた家族と犬の実話だ▼こんな数字もある。12万8千匹。2013年度に全国で殺処分された犬と猫の数。半数は離乳前の赤ちゃんだった。ペットブームの陰でモノのように扱われる命に胸が痛む。ペットが幸せなら、飼い主も幸せにしてくれる。